

福電協会報

第94号



一般社団法人 福岡電業協会
2024.1

福電協会報

第94号

◀ もくじ ▶

会長挨拶……………西村 松次…………	1
祝 辞 国土交通省九州地方整備局	
局長 森 戸 義 貴…………	2
福岡県知事 服 部 誠太郎…………	3
福岡市長 高 島 宗一郎…………	4
新年賀詞交歓会……………	5
施設紹介	
福岡市地下鉄七隈線博多駅……………	7
技術レポート	
RJR プレシア天神サウスにおける iPad を使用した施工管理方法 …	10
シリーズ〔職場訪問〕	
株式会社 佐電工 福岡支店 ……………	12
横顔紹介と随筆……………	13
写真コンクール(第43回)	20
シリーズ〔郷土〕……………大野城市…………	24
事業報告	
令和5年度 福岡県総合防災訓練参加 …	27
「技術講習会」の実施 ……………	29
「実技講習会」を開催 ……………	30
令和5年度	
国土交通省九州地方整備局営繕部 定例懇談会…	31
高校生「現場見学会及び意見交換会」 を開催 …	32
第28回福電協ボウリング大会を開催 …	33
第97回福電協ゴルフ大会を開催 ……	34
第98回福電協ゴルフ大会を開催 ……	35
委員会だより	
総務委員会……………	36
広報委員会……………	36
技術委員会……………	37
事業委員会……………	37
協会組織……………	38
会員名簿……………	39
役員名簿……………	42

表紙のことば

福岡市地下鉄七隈線は、平成17年2月3日に橋本駅～天神南駅間を開業し、令和5年3月27日に天神南駅から博多駅まで約1.4キロ延伸し全線開通しました。

新年のご挨拶

一般社団法人 福岡電業協会

会長 西村 松 次



新年、あけましておめでとうございます。会長の西村でございます。

会員の皆様におかれましては、新しい年の初めに、多数ご出席を頂きまして誠に有難うございます。また、関係諸官庁、関係団体関係の皆様にも多数ご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げに伴い、経済社会活動が元に戻ってきた1年であったように感じます。人の動きが活発になり、世の中も大変明るくなってきたし、景気も良くなっているように感じます。一方で、諸物価等があり、職種によっては、人手不足が益々、顕著になってきました。

そんな中で、電設業界では、令和5年度日本電設工業協会の会員大会が、10月12日に帝国ホテル大阪で開催されました。

大会には、全国から約500名が参加し、
・業務合理化、効率化、生産性向上により就労時間を削減しよう
・4週8閉所の実現に向け努力しよう
・電設工事業の将来を見据え、希望に満ちた業務環境を創ろう

この3つのテーマを掲げ、行動する電設協として、「令和6年4月に迫った『時間外労働の上限規制適用』への的確な取り組みを！」を目指すとした大会決議を採択しました。

我々の喫緊の課題は、「働き方改革の加速と定着」、「担い手の育成・確保」

であります。担い手の確保には、働きやすい魅力ある職場環境が不可欠であり、そのためにも「働き方改革」を強力に推進し、定着させることが肝要であります。

福岡電業協会では、昨年は、各種講習会や事業活動は、ほぼ通常通り活動を行うことが出来ました。「働き方改革の推進」では、発注者である諸官庁、諸団体、ゼネコン等に「4週8閉所」や「適正な工期の設定・契約変更」への要請活動をおこなってまいりました。

また、「担い手の育成・確保」については、例年、工業高校生を対象に現場見学会・意見交換会を開催していましたが、工業高校生も少子化で減少しており、新しい試みとして、女子商業高校へ、電設業界のPR・意見交換会を実施し、興味を持っていただきました。今後も、女子高校生や普通高校生、専門学校などへの訪問を検討し、学校キャラバンへの参加など若者に幅広くアピールし、担い手を確保していきたいと思っております。

電設業界は、社会のインフラを守り、必要な人材を確保し、持続可能な産業として成長していくことが必要であります。

課題は山積ではありますが、関係機関や関係団体との連携を図りながら、会員企業の皆様と、電設業界の成長・発展に努力してまいります。

最後になりますが、本日お集りの皆様にとって本年が一層の飛躍の年となりますよう、祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 挨 拶

国土交通省九州地方整備局

局長 森 戸 義 貴



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人福岡電業協会の皆さまにおかれましては、日頃より九州地方整備局の進める国土交通行政の推進にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

九州は海に囲まれ、中国の上海、韓国のソウルといった東アジアの大都市から500～1000km圏内に位置しており、東アジアの概ね中心に位置しています。そのため、ゲートウェイ機能を更に強化し、恵まれた地理的環境を活かすことで、今後もアジアの経済成長を九州の産業発展に取り込むことが日本の持続的な成長と発展に向けてますます重要です。

九州は様々な山海の幸に恵まれ、自然が豊かな地域である一方で、地形・地質・気象などの自然条件から多様な災害リスクを抱えています。近年では平成29年の九州北部豪雨、令和2年7月豪雨による球磨川流域や令和3年8月の前線停滞による九州北部での災害、令和4年台風14号、昨年7月の梅雨前線による九州北部での災害など、気候変動の影響が目に見えて現れています。

この気候変動の緩和策として、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組みが不可欠であり、国の機関の建築物に関しては、「環境負荷低減に配慮した官庁施設の整備」「再生可能エネルギーの導入・利活用拡大」「木材利用の促進」などを推進しているところですが、当整備局においては更なるエネルギー消費量の削減を可能とする建築物（ZEB Ready 相当）の設計に取り組んでいます。

また、災害発生時の国の庁舎における応急対策活動のため、これまでに実施していた耐震性の確保に加え、津波や高潮等による浸水が発生した場合にも電力・通信を確保出来るよう、改修や設計を推進してまいります。

さらなる建設分野の生産性向上及び働き方改革を実現するため、九州の地域特性に特化したDXを実現するための行動指針「九州インフラDXアクションプランV2（令和5年度）」を策定しています。ゲームエンジンを用いたメタバースやAI、UAVやスカイバーチャルツアーの活用などを災害調査や災害査定へ実装、さらには広報や住民説明会への活用など、分野網羅的にデジタル技術を活用し、組織横断的にノウハウを供用する取り組みや、デジタル技術を活用するための人材育成などに取り組んでいます。

建設産業は、社会資本整備の担い手であるとともに、災害時の復旧・復興を担う地域の守り手として、地域にとって欠かすことのできない産業分野であり、若者が希望を持って働き続けることができる業界となることが大変重要です。今年4月に建設業に対する罰則付きの時間外労働規制が適用となります。地域の建設業の維持・発展のために、週休2日をはじめとする「働き方改革」や、CCUSの普及促進など建設業従事者の「処遇改善」、DXやICT施工などによる「生産性向上」の取り組みを更に推進していく所存です。

最後になりましたが、本年が皆さまにとりまして、実り多い年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 挨 拶

福岡県知事

服 部 誠 太 郎



新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆さまにおかれましては、日頃から、電気設備工事の安全かつ適正な施工に向け、技術力や保安意識の向上にご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、エネルギー価格や原材料価格等の高騰対策を実施するとともに、7月の梅雨前線豪雨災害に伴う、被災箇所の迅速な復旧、被災された皆さまの生活支援、農林漁業・商工業者の皆さまの事業再開・継続の支援などに全力で取り組みました。

そして、前を向き、世界を見て、未来を見据えて、福岡県の成長・発展の歩みを一步でも進めたいとの思いで、「未来子どもチャレンジ応援プロジェクト」、「福岡半導体リスクリングセンター」、「水素大規模拠点の構築」などの新たな取組をスタートさせました。

今年は、辰年です。県民の皆さまの命と健康、生活を守ることを第一に、「1000億円の人づくり」、「県内GDP20兆円への挑戦」、「安全・安心で活力ある社会づくり」に取り組み、天をかけ昇る竜のように勢いよく、福岡県の成長・発展を加速させてまいります。

「1000億円の人づくり」では、市町村や企業、NPOなど多様な主体と連携し、未来を担い、世界に羽ばたく青少年を育成するとともに、九州・全国で活躍する半導体人材や中小企業のDX推進人材、スマート農業の担い手など、産業を支える人材の育成に取り組みます。さらに、女性活躍を推進するため、これまで女性の進出が少なかった分野における就業促進とともに、女性の人材育成、キャリア形成支援を強化します。

「県内GDP20兆円への挑戦」では、中小企業の持続的賃上げに向け、価格転嫁の円滑化や生産性向上

などを支援し、賃金と物価の好循環を実現します。

北九州市響灘臨海部を中心とした水素の大規模拠点やグリーンデバイスの開発・生産拠点の形成に加え、昨年訪問したボストンとの関係強化による県内バイオ産業のエコシステムの形成、福岡進出が決定したCICとの連携によるグローバルなスタートアップエコシステムの形成を図るとともに、国際金融機能の強化のため「資産運用特区」の指定を目指します。

また、新たに策定する「第三次福岡県観光振興指針」に基づく観光産業の振興、生産力やブランド力の強化、輸出拡大による農林水産業の振興、将来の発展基盤である福岡、北九州両空港や下関北九州道路の整備、戦略的な産業団地の造成や基幹的道の整備による国内外からの企業誘致を推進します。

「安全・安心で活力ある社会づくり」では、ワンヘルスセンターの整備やワンヘルス教育の充実により、福岡県をワンヘルスの世界的な先進地に押し上げてまいります。また、被災地の復旧・復興や流域治水の推進などによる防災・減災、県土強靱化に取り組みます。

さらに、「出産・子育て安心基金」を活用した少子化対策、障がいのある方の自立と社会参加、困難を抱える女性への支援、児童虐待やいじめの防止対策、孤独や孤立に悩む若者の居場所づくりを進めます。そして、スポーツや文化芸術の振興、県民の健康づくり、MaaSによる地域公共交通の活性化、移住定住の促進に取り組みます。

こうした重点分野の施策を通じ、「誰もが安心して、たくさんの笑顔で暮らせる福岡県」の実現に向け、引き続き、全身全霊で取り組んでまいります。新年が皆さまにとって、素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。

年 頭 挨拶

福岡市長

高 島 宗一郎



新年、あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆様におかれましては、日頃より福岡市行政の推進にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。特に会員の皆様には、市民生活に不可欠な小・中学校や市営住宅、また、公民館や市民センターなど様々な公共施設の整備やメンテナンスにご尽力いただいております。改めて感謝申し上げます。

去年は、長いコロナ禍が明けるとともに、地下鉄七隈線の延伸、世界水泳の開催、長浜屋台街の復活など、うれしいニュースが続き、街にたくさんの笑顔が戻った一年となりました。

福岡市の人口も164万人を超え、人口増加数は全国一位となっています。市税収入も過去最高を更新し、日本で一番元気な街として成長を続けています。この勢いをさらに加速させ、次世代に明るい未来を残していくため、今年も様々なチャレンジを続けていきます。

都心部では、天神ビッグバンや博多コネクティッドにより建て替わったビルに、高付加価値なビジネスが集積し、さらに「TEAM FUKUOKA」による国際金融機能誘致も着実に実績を積み上げています。自己実現ができる舞台を増やすことで、福岡を「大きな夢が叶う街」へとアップデートさせていきます。

このほか、博多部の歴史・伝統・文化を際立たせる「博多旧市街プロジェクト」、身近な自然の魅力高める「Fukuoka East & West Coast」や

「Fukuoka Green NEXT」、アートあふれる街を目指す「Fukuoka Art Next」など、福岡市の魅力を高めるたくさんのプロジェクトが動いています。2024年も明るい話題で多くの皆さんを笑顔にしていけるよう、全力で市政運営に取り組んでまいります。

昨日よりも今日、今日よりも明日が素晴らしいものとなるよう、未来に誇れる街づくりを行っていくことが、今を生きる私たちの使命です。今年にはまさに、まちづくりの長期計画である「マスタープラン」を策定する年であり、未来を担う子どもたち、若者の皆さんをはじめ、多くの市民の皆さまと共に、福岡市の未来をしっかりと描いていきたいと思っております。

「人」、「環境」、「都市活力」がより高い次元で調和したアジアのリーダー都市を目指し、福岡市は2024年も変化を恐れず、チャレンジを続けてまいります。

福岡電業協会の皆様におかれましても、業界の益々のご発展のため、皆様方の優れた技術を存分に発揮して頂くとともに、福岡市民の皆さまの生活の維持・向上のため、引き続きのご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後に、みなさまの今年一年のご健勝とご活躍を心から祈念し、新年のあいさつとさせていただきます。

2024年度 新年賀詞交歓会

一般社団法人 福岡電業協会



(一社)福岡電業協会として「新年賀詞交歓会」が、令和6年1月9日（火曜日）ソラリア西鉄ホテルにて開催された。

当日の来賓として、国土交通省九州地方整備局、経済産業省九州産業保安監督部、防衛省九州防衛局、独立法人 都市再生機構九州支社、福岡県、福岡市、福岡市議会、福岡市住宅供給公社等から多数出席頂き、正会員および賛助会員も併せて約200名の参加を得て開催された。

まず主催者を代表して、西村会長より、人の動きが活発になる一方、諸物価等の上昇や人手不足が顕著になってきた中で、喫緊の課題は、「働き方改革の加速と定着」、「担い手の育成・確保」であり、働きやすい魅力ある職場環境が不可欠であり、そのためにも「働き方改革」を強力に推進し、定着させ

ることが肝要である。

関係機関や関係団体との連携を図りながら、会員の皆様と電設業界の成長・発展に努力していくとの挨拶があった。

来賓を代表して、九州地方整備局 森戸局長の代理として西尾営繕部長が、気候変動の緩和策として2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが不可欠であり、環境対策を推進し、さらなるエネルギー消費量の削減を可能とする建築物の設計に取り組んでいる。そして、地域の建設業の維持・発展のために、週休2日をはじめとする「働き方改革」やCCUSの普及促進、ICT活用工事などによる「生産性向上」の取組をさらに推進していく。直轄営繕工事においては、十分な工期確保を含めて、無理なく施工できる設計や仮設を含む施工条

新年賀詞交歓会

件の設定について切迫感を持って実施する。また、筑後川水系について渇水対策を始めており、節水へのご協力のお願いの挨拶があった。

続いて、福岡県服部知事の代理として、古藤商工部工業保安課課長補佐より、県民の皆様の命と健康、生活を守ることを第一に、「1000億円の人づくり」「県内GDP20兆円への挑戦」「安全・安心で活力ある社会づくり」に取り組み、天を駆け上る竜のように勢いよく、福岡県の成長・発展を加速させてまいります。重点分野の施策を通じ、「誰もが安心して、たくさんの笑顔で暮らせる福岡県」の実現に向け、引き続き全身全霊で取り組んでまいりますとの挨拶があった。

結びに、福岡市高島市長の代理として、財政局宮本理事より、公共施設の整備やメンテナンスに尽力いただき感謝申し上げます。福岡市は、日本で一番元気な街として成長を続けており、次世代に明るい未来を残していくためのチャレンジを続け、今年

から本格的に、まちづくりの長期計画である「マスタープラン」を策定する年であり、福岡市の未来をしっかりと描き、高い次元で調和したアジアのリーダー都市をめざし、変化を恐れずにチャレンジしてまいりますとの挨拶であった。

引き続き来賓紹介の後、経済産業省九州産業保安監督部坂元部長により、厳粛の中での乾杯のご発声で祝宴となった。

各会員が和気あいあいの雰囲気、ご来賓の皆様と新年の挨拶や会員相互の懇親を深めた。

最後に、福岡電業協会吉田副会長よりご参加の御礼と元旦からの地震・火災等多難な幕開けであるが、インフラ整備の大切さや準備体制を整備しておくことが重要である。また、働き方改革についても皆様と協力しながら、魅力ある産業として若者が来て頂くよう、知恵を絞ってこの難局を乗り越えるため頑張っていきたいとの挨拶があり、博多手一本にて執り行い、終えることが出来た。

